

～ ワンゲルOB諸氏からの 海外赴任 健闘記 ～

●韓国・スオン日より

飲み屋での注文には、苦勞しなくなりました。

20期 高田 泰夫

昨年、8月からソウル近郊の水原（スオン）で單身生活をしています。ハングルは、絵文字のようで初めはさっぱりわからなかったですが、習い始めてみると結構簡単で、語順も日本語と同じだし、わかりやすい言葉です。意思の疎通が出来るようになるには、まだまだですが食堂や飲み屋での注文には、苦勞しなくなりました。大阪人の雰囲気を持った韓国人は、私には合うようです。当分、こちらに居ますので韓国の来られた時は声を掛けて下さい。

【ある日、高田氏から届いたメールより】

皆さん、元気でしょうか？日本は、まだまだ残暑が厳しいようですね。

こちらは、私が赴任した8月から涼しい日が続いています。というより、8月が雨が非常に多かったです。

昨日今日と、久しぶりの雲一つない晴天で、風のようにすから秋晴れという感じで非常に気持ちがいいです。

やっと、1ヶ月経ちましたが、言葉もまだまだ判らず、会社とアパートの往復だけの生活をしています。バスに乗るのも難しく、移動はもっぱらタクシーと先週買った、自転車です。

食事は、会社で朝、昼、夜と3食出るので、休みの日以外あまり苦勞しません。辛いのが苦手な私なのでどうなるかと思っていましたが、実際食べて見ると、本当に美味しくて、合っているみたいです。アパートにADSLをいれたいのですが、何か回線がいっぱいのように、9月末までダメみたいです。しょうが

ないので、2日程前からNIFTYのローミングサービスを使って電話回線で、インターネットを始めました。会社では、使えるのですが、セキュリティーが非常に厳しく、個人使用をしていると保安員が注意しに来るようです。会社への入退門も警備員がチェックをしています。空港の金属探知機のようなゲートを通して会社に出入りします。もし、会社のものを無断で持ち出しするのを見つかりと首になるそうです。そのせいか、会社へは、手ぶらで来る人が非常に多いです。僕は、リュックで行くのですが、何日かに1回は検査されな

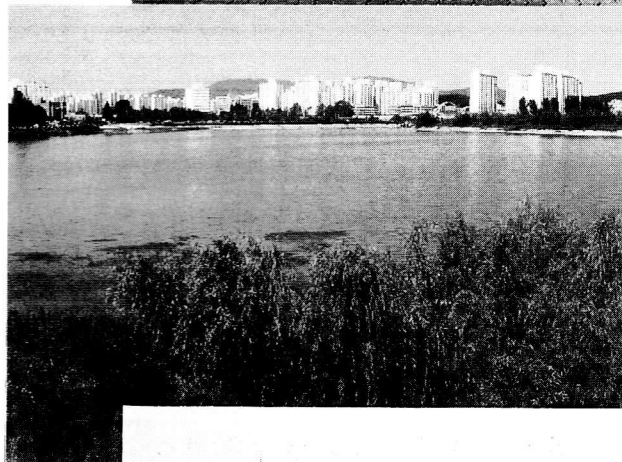
す。昨日は、自転車で、2時間程かけて、西湖に行ってきました。湖というより池ぐらいの大きさで、水は栃尾君の家の前のお堀に水のように濁ってました。

この湖は、3匹しか取れずに絶滅してしまった、「ホンダゼニタナゴ」の唯一の生息地で有名です。名前から判るように発見者は、日本人で、現存する標本は、シカゴ博物館に1尾

だけらしいです。現在は、釣り禁止らしいですが、韓国のことだから釣りをしているかなと思いついて見ましたが、やっぱりだれも釣っていませんでした。

水原は、華城でとても有名です。これは、全周5.7kmの城壁で、町を取り囲むようにあります。現在は、世界文化遺産に指定されています。時間を見ては、回って見ようと思うのですが、町は起伏が激しく、自転車ではすぐ息切れです。

ではでは、韓国は近いですからカルビでも食べに来てください！！秋は、まったけも安いみたいです。



Takada Yasuo(高田泰夫)

TEL : 82-31-211-5543 (アパート)

office : 82-31-218-2348 (直通)

携帯 : 82-119254-5552 (HP)

E-MAIL : yasuo_takada@hotmail.com

新メンバー大歓迎!! 2004スキー合宿●モットーは「スローライフ、スロースキー」

実施日■ 2004年2月21日(土)～22日(日)〈通常、参加者により前後1日ずつ延長されます〉

開催地■例によって 野沢スキー場&共同温泉浴場13湯

宿泊先■リゾートハウスふるさと 長野県下高井郡野沢温泉村6556

☎0269852241 (宿泊代は、1泊2食付約8000円)

幹事長■森川 功 幹事長代理■青柳 健二

申込み■2004年2月7日(土)までに メールまたは電話にて森川か青柳までお申し込み下さい。

森川 / isaom@bl.mmtr.or.jp 0594-22-0353

青柳 / KENAOYAGI@aol.com 048-481-0275

*和室2部屋を確保しますが、家族参加の場合は別室を確保しますので、その旨お申し込み下さい。

*野沢温泉スキー場、リゾートハウスふるさと、積雪などの情報は各ホームページでどうぞ!

<http://shinshu.online.co.jp/nozawa/>

<http://www.nozawa.com/furusato/>

●中国・蘇州だより

週一のゴルフ…。嗚呼、でもやっぱり、 恋しいのは、愛妻・多英子の手料理 ……。

21期 岡崎 秀二

私が最初に中国の大地に足を踏み入れたのは、94年8月、ちょうど関西新空港がOPENする直前だった。当時はろくに海外に出ることがなかった私には、上海まで2時間余りで着いてしまうなんて考えられなかった。しかし、蘇州までは、上海（当時の虹橋空港）から、狭くてろくに舗装されていない道を車走ること（約100km 信号はほとんどない）3時間もかかってようやくたどり着くところだった。

この地に我社の中国工場を立ち上げるべくプロジェクトの一員として下見に来たのである。空気は埃っぽく、車はろくにエアコンが効かない、冷たい飲み物もほとんどない。当時の4つ星ホテルのレストランでも冷たいビールがないことが多かった。それでも最初のうちは、中華料理のフルコースを出されるままに食べていたが、塩辛くて、油っぽい物を毎日食べていると、もういやになってしまう。

最初の下見だから6日で帰国したが、ひどい下痢で日本の医者に行ったほど食べ物があわなかったのである。その後約1年半で初期任務を終え、96年3月に帰国した。この間は、生活するだけでストレスがたまるといっても過言ではない時期で、2ヶ月に1回は帰国しないと心身ともにおかしくなってしまうそうなくらいひどい生活だった。

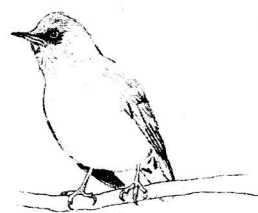
というのは、食事があわない、日本料理がほとんどない、あってもごくわずかでしかもすぐ

味が変わってしまう。それでもマンションに移ってからは、朝食は自炊するようになったので少しは良くなってきたが、お婆さんの作る夕食ははずれが多い。

また工場内の空調がろくにきかない、仕事コートを着込み、パッチをはいてやっと耐えられるかなといった具合なのに、中国人は窓を開けっぱなしにするし、建屋のつくりが悪いので隙間風がすごい。マンション内では、停電、断水、ガス切れは当たり前といった具合で住んでいる人のことを全く無視しているようだった。そのくらい生活水準が低かった。

当然娯楽というものは皆無に等しく、休日の過ごし方が大変だった。ゴルフ場は上海まで行かないといけないし、しかも高い。スナックやクラブも極わずかしがなく、日本のカラオケはほとんどなし。当時はホステスが横に座ることもなかった。（罰金約15万円だそうだ）。

こんな蘇州だったが、私が出戻りで2001年9月に来たときは余りの変わりように驚いた。日本を含む外資系の企業進出で、高級マンション、道路の整備、高級ホテルの建設があとをひかない。それにともない、日本料理、飲み屋が今でもどんどん増えており、今では食事に困ることは全くないし、飲み屋でも日本のカラオケが盛りだくさん。ホステスはちゃんと横に座るし、ほとんどの人が日本語を話す。こうやって日本人がお金をばらまいたおかげで、女性（小



姐といいます) もきれいになって、町がはなやかになってきた。商業街といって、今ではインターネットにも掲載されるほどになった。この商業街まで歩いて15分位。

今後の大きな課題は、日本人学校だと思われる。駐在している人のほとんどが単身。まれに夫婦で住んでいますが、その人たちは、学校前の子供持か老夫婦がほとんどだ。独身の人は中国人小姐と結婚する人も珍しくない。私の場合も他の人と同じで単身、大体週一回はゴルフ、飲み屋は、月2、3回程度? ちなみにカラオケは中国語しか歌わない。工場内では、できるだけ中国語で会話すが、本当に難しい。

ここからは、蘇州の紹介をしよう。ここ蘇州には中国四大名園のうちの2つ(留園、拙政園)が存在するくらい有名な観光地だ。他にも獅子林、西園などがある。また、毎年大晦日のゆく年くる年でテレビに出てくる寒山寺、蘇州のシンボリック的存在で町から浮かんで見える虎丘といったところが有名で、毎日観光客でにぎわっている。大晦日の寒山寺には、日本からの観光客で大渋滞になるくらい。食べ物ではやはり上海蟹だろうか。上海蟹と言っても蟹の収穫場所は蘇州。10月から12月しか食べられない。味は良いが食べるのが面倒だ。私のような北陸人は越前蟹の方がやっぱりよい。

現在、出戻り後2年3ヶ月になるが、いまや、日本企業の中国進出はとどまる気配がまるでな

い。我社の場合も中国工場の増設をしており、いつ帰国できるか全く予想できない状況だ。それどころか、日本に戻る職場すらなくなりそう…(笑)。というわけで、上海、蘇州方面に来るときは是非ご一報ください。



現役時代は超スマートで、いつもリスのようにシュルシュルと山を歩いていた岡崎くん。少し貫禄がついてきたかな…? 蘇州の水、意外と合っているのかもしれないぞお〜。

●ブラジル・サンパウロだより

克己です。元気ですか？ 私、乗馬、始めました。

21期 山口 克己

【21期主将の山口克己くんは平成15年春よりサンパウロに単身赴任中。21期とその周辺の愉快的仲間たちで、ブラジル、中国と、メール交換をしています。その一部より編集させていただきました】

Sent: Wednesday, April 02, 2003 5:54 AM

Subject: 花見の季節です

克己です。皆さんお元気そうで何よりです。そちらは、花見の季節ですね。毎年この時期は意味もなく浮かれていましたが、今年はちょっと違いますね。

前は朝夕肌寒いと書いたのですが、今週はまた打って変わって、晴れて暑くなってしまいました。温度の変化が大きくて、体調を崩しやすいということです。先週末に布団を買いに行って、ぬくぬくと寝られるようになったのですが、またいらなくなったりするようです。こちらでは、これから秋ということで、日本の柿が売られています。品種は富有です。結構うまいですよ。日系人の人が持ち込んで普及させたようです。

もうあっという間に、4月ですね。

いやびっくりしました。では、また。

Sent: Wednesday, April 16, 2003 6:30 AM

Subject: 県庁立派すぎ？

こんにちは、克己です。

金沢情報とてもありがたい情報でした。なんか県庁立派すぎるような感じですね。しかしあんなに海が近いところに行ってしまったんですね。とても眺めが良さそうです。梅さん

は通勤が大変になったんでしょう。農水省から出向している人も今二人ほど知っていますが、あんなきれいなビルでいいですよ。農水省のビルは霞ヶ関でも古い方ですから。財務や文部は古いけど、カッコいいですから。農水は古いだけです。

ところで県庁の跡地はどうなるんですか。

兼六園の桜が立派で羨ましいです。夜桜も良いですね。

やはり桜は日本人にとって特別な花ですかね。

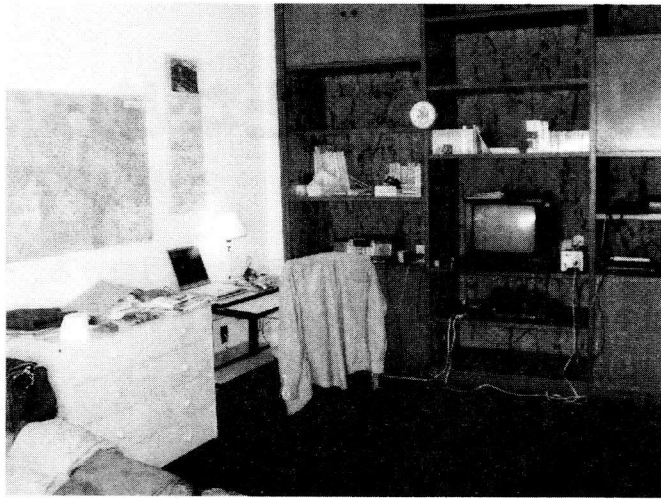
先週の日曜から乗馬学校に入りました。週1回のレッスンで、1回30分ですが、月の授業料が175リアルです。いま1ドル3.15リアル位ですから、1リアル38円くらいだと思います。安いです。初回はあっという間に時間がたってしまいました。

こちらでは、もうあちこちで初対面の日本人に頼りっぱなしです。サンパウロには県人会もあるんですよ。日本人、日系人を含め長崎県人会は300人くらいだとか。もちろん石川県人会もあります。今年1月に加賀宝生がこちらで披露されたらしいです。では、また。

Sent: Friday, April 25, 2003 7:23 AM

Subject: アパート公開

皆さんお元気ですか。



サンパウロのヤマグチです。

こちらは今午後7時をすぎたところです。時差は12時間ありますので、皆さんはこれから起きて仕事に出かける準備など始めている頃かと思います。

もうすぐゴールデンウィークで少しくうきしている頃でしょうか。こちらは、先週の金曜から今週の月曜まで復活祭の連休がありましたが、ゴールデンウィークはありません。現地の休みと日本の休みと両方休むのかと思ったのですが、どうも違うようです。天皇誕生日と年末年始は日本の暦で休むようですが。サンパウロのアパートをお見せします。

17階建ての3階に住んでいます。日本で言う1階はテハ（地球）といい、日本の2階がこちらの1階です。1フロアーには2軒しかないのです、全部で34軒ということになります。本当はもっと高いところだと眺めもいいのですが、3階ではちょっと眺めは良くありません。写真では向かって左側が僕の住んでいるところです。アパートの前は結構交通量が多くて、朝早くから夜遅くまで車の音が気になります。治安もあまり良くないところと言われていますので、夜遅く帰るときには、ちょっと緊張します。ただし、職場は歩いて5分だし、24時間営業のスーパーもすぐ近

くにあって便利です。実はそのスーパーの近くでよく強盗がでるのですが…。お元気で。

Sent: Friday, June 3, 2003 6:23 AM

Subject: いよいよ6月

ご無沙汰しています。皆さんお元気ですか。

こちら半日遅れで、6月になりました。

当地は先週末もとても気持ちの良い秋晴れで、雲一つない晴天でした。日差しに当たると暑いのですが、木陰などはヒンヤリとします。街には、相変わらずコートやセーターを着た人たちと、タンクトップやTシャツの人が混在しています。

さて、かねてよりご要望のありましたアパート内部を公開します。部屋は、広い応接室兼ダイニングがあるほか、寝室+居室2という感じです。浴室とシャワー室が別々にあり、トイレは2つです。そして洗濯室があって、洗濯物は室内に干すことになっています。どうも外に干してはいけないようです。そうそう、ブラジルのトイレでは、紙を流してはいけないのです。紙を流すと詰まってしまうので、使用済みの紙は備え付けのゴミ箱に捨てます。

ブラジルに旅行に来た時には、ご注意ください。お元気で。

ここ数年、職場の友人達と海外旅行へ行くのが恒例となっている。行き先は休暇日数と予算の制約からアジア近辺が多くなっている。これまで、トルコ、インド、カンボジアと、あまりポピュラーでない所へ出かけてきた。今回はチベットへとも思ったが、ネパールへ行くことにした。お目当てはエベレストへの遊覧飛行だ。

2003年2月1日、バンコク経由でカトマンズのトリブバン空港に降り立った。「カトマンズはレンガ色である。」と沢木耕太郎は「深夜特急」で記しているが、標高約1,400mの霧に包まれたひんやりとした雰囲気はまさにレンガ色だ。延べで2日間ほどカトマンズにいたがいつも霧っていた。空港では銃を持った兵隊が警備していて、重々しい雰囲気があった。数日前の新聞によると、毛沢東急進派の活動が活発になり死者も出たとのことだ。

バスに乗り市内観光に出た。現地ガイドは日本人ではないかと思うほど流暢な日本語を話す現地男性。顔立ちは上品なジョン・トラボルタというところか。ダルバール広場は人通りが多く中世の雰囲気が残る雑然とした広場だ。広場に面した民家の2階の窓からぼんやりと通りを見下ろす女性を見かけた。一角には10人ほどの若者達が日中にもかかわらずカードで遊んでいた。こういう光景は日本では目にすることがなくなった。時間の流れ方が違う。善し悪しは別だ。大通りの交差点でも何をするでもなく大勢の若者達が屯していた。本当に何をしているのだろうか。

広場の中心部にある「クマリの館」には少女神「クマリ」が住んでいる。ヒンズー教や仏教の女神が少女の体を借りてこの世に現れると信じられている。少女の間だけ、つまり

初潮を迎えるまで女神であり続ける。クマリはカトマンズに住む少女の中から選ばれるが、その身体的条件が32あるという。その中には“ほら貝のような首”とか“子牛のようなまつげ”とか“美しい影”というのがある。館の中庭の賽銭箱にたくさんお布施をしてカメラをしまうと「クマリ」は館の2階の窓からちょっとだけ顔をだした。ほら貝のような首であったかはわからない。

その日のホテルは「シャングリラホテル」だったが、折りよく主人の結婚式の日で、僕達もパーティーに招待された。広い中庭に松明が焚かれ、バイキング形式で料理や飲み物がふるまわれた。日が落ちると急激に冷え込み、寒さをこらえながらワインなどを飲んで、赤と白の衣装で着飾った花嫁さんと一緒に写真を撮ったりしていた。プールサイドではエレキバンドが演奏していたので行ってみると、小学生くらいの女の子達が踊っており、僕達を見るときりに一緒に踊ろうと誘う。最初は、なにしろどう踊ればよいかわからず恥じらいもあり断っていたが、無理矢理引きづりこまれてしまった。見よう見まねで手足を動かしているうちにようやく曲が終わりホっとしてベンチで座っていると、こんどは年配のおじさんが一緒に踊ろうと誘う。しかたなくおじさんの動きに合わせてステップを踏んでいたが、地元の民謡と思われる曲に合わせたおじさんの動きはとてもしズミックで、ネイティブには敵わんなと思いながら、真似ているうちに何となくさまになってきた。おじさんは、曲が終わるとまた踊ろうと誘う。こんなふうにしてさらに2、3曲踊るともう恥じらいもなくなってきた、女の子たちの踊りの輪の中へ入って行って彼女らの真似をして聞こえるまま意味もわからず「レッサム！」と

叫んでいた。ここは本当にカトマンズなのだろうか、ふと夜空を見上げて思うのだが、既に体は順応してしまっていて「レッサム！」と叫び続けていた。ネパールの人たちは思いのほか陽気で、皆踊りが上手だ。



「レッサム！」

翌日はポカラまでバスの旅。延々6時間。途中、アンナプルナやマナスルなどヒマラヤの山々が見えた。ガイドさんによると、このところ天候が悪くこの日は1週間ぶりの眺望であるとのこと。ポカラに着いたのはもう真っ暗になってからであった。

翌朝はサランコットへ朝焼けのヒマラヤを見に出かけた。天候がよく刻々と朝日を浴び姿を変えていくマチャプチャレを見ることができた。ポカラはマチャプチャレの町である。どこからでも魚の尾（マチャプチャレ）のような峻険な姿を見ることができる。

アンナプルナサウス（7,912m）、アンナプルナI（8,091m）、マチャプチャレ（6,993m）、アンナプルナIII（7,555m）、アンナプルナIV（7,525m）、アンナプルナII（7,937m）、ラムジュン・ヒマール（6,986m）、これらがポカラか

ら眺めた山々である。ホテル「シャングリラ・ビレッジ」のプールサイドには美しい花が咲き乱れていた。ベッドに寝そべりながらこれらの山々が見られる。山々を眺めていると尺八の音が聞こえてきた。このツアーの一員である兵庫から来たおっさんが持ってきた尺八を吹いているのだ。ヒマラヤに尺八、奇妙なマッチングだ。

この日のペワ湖のほとりでの昼食は、生卵つきのスキヤキだった。日本米に近いご飯だった。ネパールのご飯はタイ米より細くてパサパサしている。まずいとは思わないが、そのままではハシでつまめず、カレーや豆のスープなど汁気がないと食べにくい。ペワ湖の周辺ではチベット難民がみやげものをしきりに売りにきた。湖の向こうにはダウラギリがほんの少し顔をのぞかせていた。あれが8,000mもあるのか？

2月4日、ポカラから再びカトマンズへ。今度は飛行機。機内で隣合わせた現地ガイドに、ずっと聞きたかったことを尋ねた。佐野真一のノンフィクション「東電OL殺人事件」の容疑者のことだ。東京電力に勤める女性エリート社員が、仕事を終えた後売春をしていて、ある夜客に殺害されてしまった事件だ。容疑者としてネパール人のゴビンダという男性が逮捕されたが、佐野真一は被害者の売春がお金のためではなく毎晩4人の客を取ることを自らに課していた、いわば「業」とも言えるその異常な行動の背景を探り、さらにゴビンダの無実を力説している。ゴビンダは結局最高裁で逆転有罪判決を受けることになるのだが、ガイドにこの事件を知っているか、また同国人としてゴビンダのことをどう思うかと聞いてみた。答えは意外とそっけなく、事件があったことは知っているが特別の思い

を抱くほどネパールでは詳しく報道されていないということであった。

ヒンズー教のお寺、パシュパティナートの対岸には火葬場がある。遺灰は聖なる河、パグマティ川に流される。僕たちがお寺に着いた時、火葬の煙が上がっていた。遺体はオレンジ色の布で覆われているのですぐわかる。異臭が漂っていた。

ボダナートにはネパール最大のストゥーパ（仏塔）がある。知恵の目と言われる大きな目玉が2つあるやつだ。チベット仏教徒の重要な巡礼地で、赤い法衣を着た僧侶がたくさんお参りにきていた。年若い僧侶も多く、大きな黒い靴と赤い法衣とが不釣り合いだった。五体倒地礼という体を投げ出してお参りする人たちもいた。大そうな人出だった。

さて、最終日はメインイベント、エベレストへの遊覧飛行だ。このツアーを主催した阪急交通社が一切関知しないツアー客の勝手な行動だ。20人乗りの小さな飛行機で出発した。この日も快晴だがさすがによく揺れる。スチュワーデスはインド人風の美人。彼女は上空でヒマラヤの山々の名前を一人一人、窓を覗きながら一生懸命説明してくれるのだが、英語なのだろうが全くわからない。しかしさすがにエベレストだけはわかった。かなり接近してくれたので、岩肌をはっきり見ることができた。

ジョン・クラカワーの「空へ」はエベレストで1996年に起きた、日本人瀧波康子を含む10数名の大量遭難事故のノンフィクションだが、一方でエベレスト登山の「営利事業化」の実態もルポしていて興味深い。一人数百万円（1千万円に近い？）で登山客を公募して、「営業遠征隊」を編成するが、「空へ」によるとベース・キャンプの豪華さは次のよ

うだ。

- ・ やがて行く手に彩り華やかなナイロンドームの町が広がった。300張り以上のテントが、岩や石の散らばる氷河上に点々と広がっており・・・
- ・ 食堂テントはキャンバス製で、その中には巨大な石のテーブルや、ステレオシステム、図書コーナー、太陽電池の電灯などがある。
- ・ 通信テントには衛星通信電話とファックスを備えている。
- ・ 食堂要員が沸かした湯をバケツに入れてゴム・ホースで注ぐ方式の即席シャワーもある。
- ・ 数日に一回、焼きたてのパンと生野菜が何頭かのヤクの背で運び込まれる。
- ・ 毎朝かかさず、・・・（コックとキッチンボーイが）各テントを回り、マグ・カップに容れた熱々のシェルパ・ティーを、寝袋に入ったままのわたしたちに手渡ししていく。

これらのことが高度5,360mの地点で行われているというのだ。

遊覧飛行機の窓から見たエベレストの岩肌は、冷たく、鋭く、人間の腕力と脚力では到底太刀打ちできるもではないと直感するほど圧倒的だった。僕にとってはヒマラヤの山々を見るだけの対象だ。世界一高い山と、「少し山登りをしている」自分との“隔たり”を実感した。だから、ポカラのホテルのベッドで寝そべって、ウィスキー（マウント・エベレストウィスキーという名の地元産）をちびりと飲みながらマチャプチャレを眺めた時、それで十分満足できたのだった。これが今回のネパール旅行最大の収穫かな。

ワングルの卒業生は皆OBです

何をいまさらとお思いでしょう。OB会会則第2条にも「本会は金沢大学ワングルフォーゲル部に所属した卒業生で構成する」と記してあります。そして、会則には退会の規定はありません。つまり、OBになったら最後、雨が降ろうが槍が降ろうが、会の運営に不満が有ろうが無かろうが、会費を納めようが滞納しようが、永久にOBなのです。(ここまで書いて、本人も背筋が若干寒くなっています)過去にちょっとした行き違いからOB会を辞めると誓った人もいたようですが、それは心の中の問題、OB会はいつでもドアをオープンにしていますので、是非また入ってきてください。

名簿の管理と各期連絡員

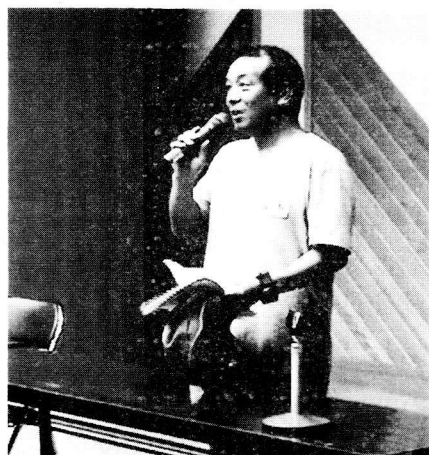
新事務局の方針として、無理せず楽しんでやろうと考えています。とは言え、最低限しなければならぬこととして、会費の徴収と名簿の管理があります。会員あつての会ですから常に連絡できるようにしておくことが理想で、各期の連絡員に頼るところが大きくなります。総会の時に提示しなかった新連絡員ですが、当面は従来の連絡員の方(下記参照)になっていただくことを、この場を借りてお願いいたします。また、OBの皆様におかれましては住所変更、Eメールアドレスの取得、変更等がありましたら事務局(名簿担当)までご一報いただければ幸いです。

各期連絡員(空欄は調査中)

1～3期	北 正昭	4期	鈴木 正国	5期	稲葉 正己
6期	合津 尚	7期	沢田 孝雄	8期	山村 嘉一
9期	白井 勇	10期	山知 亮	11期	青柳 健二
12期	赤地 賢一	13期	大島 良治	14期	浅見 裕子
15期	坂尻 忠秀	16期	北川 隆次	17期	渡辺 和文
18期	椿川 利弘	19期	梅 典雅	20期	久富 象二
21期	村松 鋭一	22期	森 恵利子	23期	名倉 均
24期	麻田 正弘	25期	高橋 伸治	26期	藤田 章三
27期	二木 博子	28期	浜本 信一	29期	高木 美保
30期	野田 和裕	31期	水越英四郎	32期	小山 恵介
33期	奥出 俊一	34期	金田 学	35期	吉田 稔
36期	石川 明弘	37期	柴田 祐介	38期	吉原 正敏
39期	老田 浩章	40期		41期	
42期		43期		44期	
45期					

※この「やまざと」18号はワングルOB全員の皆様へご送付させていただいています。
盃片手に気軽にご覧いただけるよう、軽い内容に作りました。ご笑覧、ご笑読下さい。

新役員の一部の方をご紹介します。(上の写真より)
会長■19期・梶 典雅
幹事■20期・深田 進
幹事■22期・森 恵利子
会計■23期・鳥越 伸博



OB会・会報誌「やまざと」vol. 18 (2004新年号)

発行 日■平成15年12月

発行 者■梶 典雅

編集責任者■大野 直子

印 刷■プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

事務局■〒920-0226 石川県金沢市栗崎町2-111

電話076-237-8706 (大野直子)

E-mail ohno@yu.incl.ne.jp

KUWVOB会 HP■ <http://www001.upp.so-net.ne.jp/ma-okuna/kuwv/index.html>

(15期・奥名氏が管理するホームページ。最新情報も得られ、面白いですよ!!)

梶 典雅 会長 E-mail togatotoro@yahoo.co.jp

名倉 名簿担当 E-mail nag@po3.nsknet.or.jp

振込口座■郵便局/00780-3-14120/金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

振込口座■北國銀行本店/普 223703/金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会